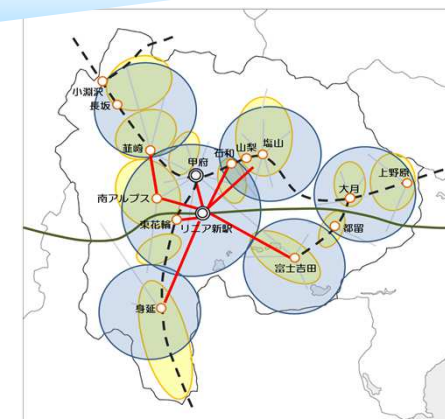
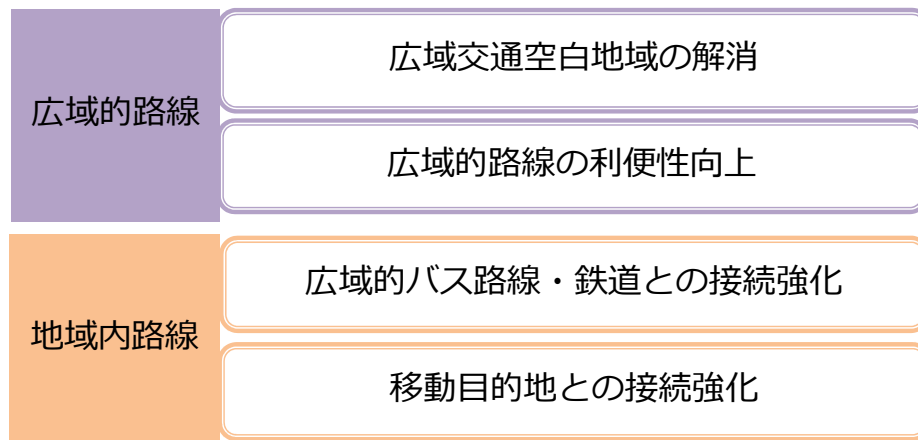


山梨県内のバス路線の維持

<p>既存の広域的・幹線的 路線の運行支援</p>	<p>バス運行対策（赤字バス路線対策）費補助金 【108,950千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の広域的・幹線的路線の運行に対し支援 ・ 4事業者（山梨交通、西東京バス、富士急バス、富士急モビリティ）が運行する県内25路線
<p>既存の広域的・幹線的 路線の車両購入支援</p>	<p>バス運行対策（車両減価償却）費補助金 【10,860千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の広域的・幹線的路線の運行に対し支援 ・ 山梨交通、富士急バスが活用
<p>広域的・幹線的路線に 準じる路線の運行等支援</p>	<p>市町村自主運営バス補助金 【41,482千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃止代替バス路線（51路線）の運行や車両購入に対し支援
<p>計画に基づき新設された 広域的路線の運行支援</p>	<p>生活バス路線維持費補助金 【849千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的・幹線的路線に準じる路線（1路線）の運行に対し支援

バス交通ネットワークの維持

支援の成果



広域的路線・地域内路線の改善、バス相互・鉄道との効率的乗り継ぎによる**利便性の高い交通ネットワークの実現**

○ 交通弱者移動支援サービス導入事業費

【これまでの取り組み】

- 平成30年度、「多分野連携・次世代型交通サービス検討会議」を3回、分科会を2回開催し、県内の公共交通を活用する取り組みや公共交通を補完するための新たな交通サービスを検討した。
- 令和元年度と2年度には、既存公共交通がカバーしきれていない交通空白地に住む高齢者等の移動手段の確保に向けて、公共交通を補完する新たな交通サービス導入に向け、セミナーを開催するとともに補助事業を実施した。

- ・交通弱者移動支援サービス導入事業費補助金
 - <補助先> 市町村、NPO法人等
 - <補助対象> 備品購入費、運転者講習代等
 - <補助率> 1/2 (300千円上限)

※令和元年実績：北杜市

【令和3年度の取り組み】

公共交通を補完する交通サービスの実施イメージ

- 市町村等の導入促進に向けてきめ細かな対応を図るため、セミナーの開催から個別訪問へと実施方法を変更した。

【令和4年度の取り組み】

- 引き続き市町村への個別訪問での働きかけを実施する。



○ 新たなモビリティサービス導入促進モデル事業

【これまでの取り組み】

- 平成30年6月、「先進バス交通技術研究会」を設置。令和2年度からは、「AIを活用した交通技術」勉強会（プロジェクトチーム）を設け、先進地や実証実験視察の報告、事例発表等を通じ、市町村担当者に情報フィードバックを行ってきた。
- 令和3年度は、市町村担当者を対象としたAIオンデマンド交通事業者のオンライン説明会を通じてマッチングを図ると共に、先進地域や実証実験を行っている地域を紹介し、視察を案内して、AIオンデマンド交通の利便性や導入効果について周知した。

【令和4年度の取り組み】

- 交通空白地帯の解消や交通弱者の移動手段の確保を図るため、AIオンデマンド交通の導入に向けた実証実験を行う市町村の費用の一部を県が補助し、モデル事業を構築することで、県内に効果を波及させる。

新たなモビリティサービス導入促進モデル事業費補助金

補助先	市町村
補助対象	車両運行委託料、システム導入経費、システム利用料、端末購入経費、コールセンター業務委託料 等
補助率	1 / 2（上限5,000千円）

AIオンデマンド交通とは

従来の定時定路線型の路線バスとは異なり、利用者の予約に対して、AIによる最適な運行ルート設定と配車をリアルタイムで行う乗合輸送サービスのこと。

乗客はスマートフォンや電話から乗車予約



AIによる決定



画像出典：国土交通省ウェブサイト

○先進バス交通技術導入促進事業

【これまでの取り組み】

○「山梨県先進バス交通技術研究会」を平成30年6月に設置。令和2年度以降は「①燃料電池バス」、「AIを活用した交通技術」、「③自動運転」、「④MaaS」の勉強会（プロジェクトチーム）を設け、調査と研究を進めてきた。

【令和3年度の取り組み】

①燃料電池バス

- 「燃料電池バスSORA山梨県民試乗会」を開催（11月12日～14日）
 - ・リニア中央新幹線開業を見据え、JR身延線小井川駅とリニア新駅建設予定地付近を中心とした試乗コースを設定
 - ・新型コロナウイルス対策の観点から、事前予約制、定員の半分程度で運行

【試乗コース・乗車数】

リニア沿線小学校試乗会	2校各1学年	120乗車	
小井川駅⇄アイメッセ山梨	全18便	256乗車	
ゆめソーラー館やまなし見学ツアー	全2便	38乗車	
ヴァンフォーレ甲府公式戦観戦ツアー	全2便	35乗車	総計459乗車

- 燃料電池バスを導入したバス事業者からのヒアリングを通じた事例紹介
- 経済性とCO2削減効果をテーマとした有識者の講演

②AIを活用した交通技術

- AIオンデマンド交通事業者と市町村交通政策担当者とのマッチング
- 先進自治体の講演と県内自治体担当者による先進地視察の案内
- 「新たなモビリティサービス導入促進モデル事業費補助金」の検討

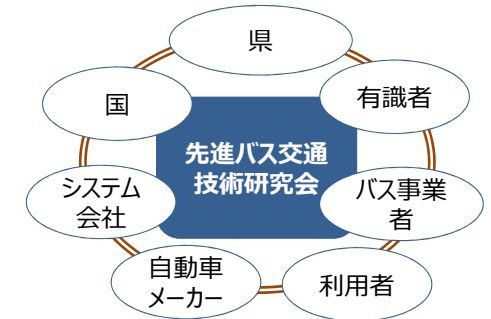
③自動運転

- 先進事業者の講演と意見交換を通じたビジネスモデル検討
- 先進地視察（茨城県境町：国内初の自治体による自動運転バス定常走行）

④MaaS（実施主体：観光文化部、別途説明）

【令和4年度の取り組み】

○引き続き「山梨県先進バス交通技術研究会」と上記勉強会で調査研究を進める。



燃料電池バス試乗会の様子

